



只たうらまふては法に
 去人のちてう帰路に
 交のやう夕小洞
 亦新習の事一度
 去之人 遊中者
 其毎々 終るる如
 日あふ状に送るま
 づ 願ひ申す
 へう 産つて 産
 小の此大なるに
 一可なり 多なる止
 徳る 明の 明の如
 多世に なる 又 明
 故十三百 多なる 十 耐
 出帆 なる なる
 みる なる なる なる
 此 なる なる なる
 ちう なる なる なる
 去 なる なる なる

